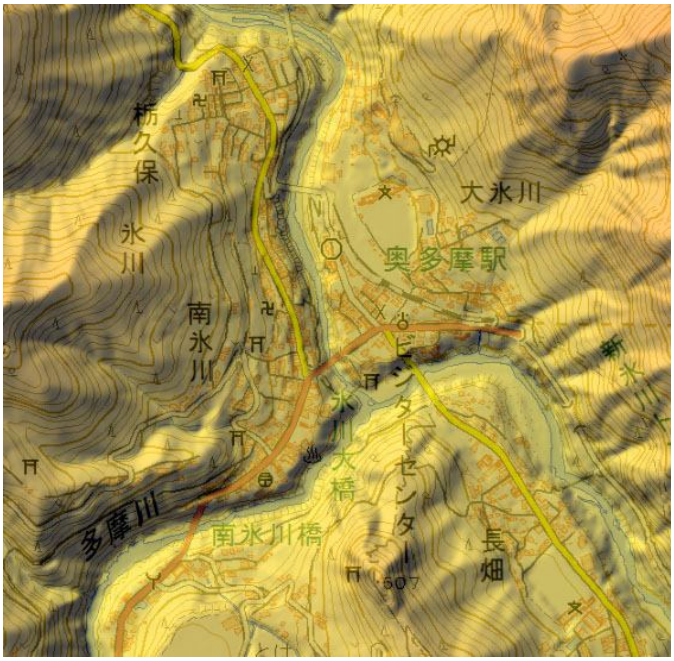
「日々の理科」(第 1248 号)　2017（H29),12,-6

「奥多摩自然観察会（８）」

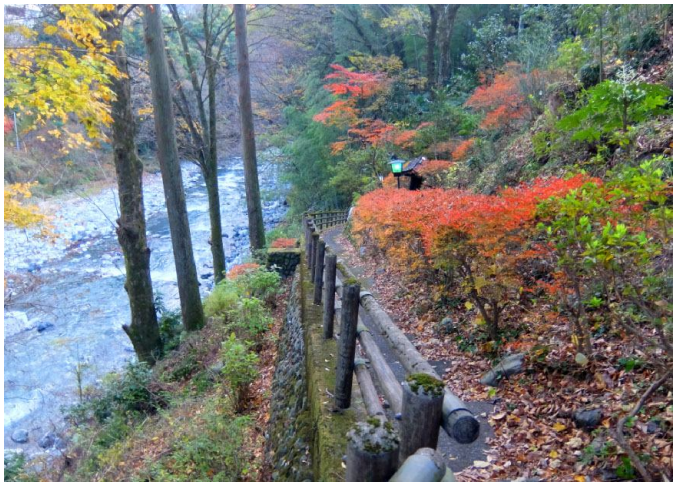
お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

日原川を渡ると、日原街道の旧道に出る。現在はもっと上手に立派な自動車道があるが、かつてはここが日原街道で、しかも砂利道だった記憶がある。

私はこの道が何か懐かしく、一枚絵に描いておいた。遠くに落葉広葉樹と常緑針葉樹が混ざった山肌の、本仁田山が見えるのも嬉しい。



上図は奥多摩町氷川付近の「色別標高図」である。（国土地理院提供・田中作図）左下から蛇行して入ってくるのが「多摩川本流」、北から合流するのが「日原川」だ。その日原川の合流点付近が「氷川渓谷」と呼ばれている。奥多摩駅や学校、町役場などは、川に挟まれたわずかな平地にあることがわかる。今回歩いた遊歩道は、日原川の右岸（図では川の左側）にある。



氷川渓谷の遊歩道は、日原街道から少し降りたところにある。都内よりも季節が一カ月ぐらい早く進んでいるので、晩秋も終わって、初冬と言っても良い景観になっていた。

遊歩道の途中で、大変な骨董品を見つけた。古いジュースの空き缶だ。錆びてはいるが、原形をとどめている。飲み口も昔の「プルタブ式」の、今では非常に珍しいものだ。持ち帰りたいほどだった。

奥多摩には針葉樹が多いが、実はケヤキの巨木も結構目立つ。氷川渓谷の遊歩道にも、ケヤキの巨木があって、指導員の方が落ち葉や果実について説明してくださった。

参加者の学生さんの多くは、ケヤキという樹木や葉の形状は知っていたようだが、種子（正確には果実）の存在は知らなかったようだ。この場所にもたくさん落ちていてた。ブドウの種のような形状・大きさだ。ケヤキのような巨木も、最初はこんなに小さな種子から芽生えるのだと、一様に驚きの表情だった。